

白虎隊の「義」伝えたい

白虎隊の会

b y a k k o t a i n o k a i

会誌 8 号

Vol.8 2018年4月

白虎隊の「義」後世に



目次

本年度の事業をふり返って	飯沼一元…………… 2
白虎隊士生家案内図の設置	森川敬寿…………… 3
白虎隊士生家跡碑の設置	森川敬樹…………… 4
寄稿：白虎隊士生家跡碑の制作にあたって	
古川善裕…………… 5	



発行者 白虎隊の会

寄稿：白虎隊士生家案内板の制作にあたって

	長谷川利彦…………… 6
下関支部だより	吉井克也…………… 7
会津支部だより他……………	8
本部便り	飯沼一元…………… 9
会員名簿……………	10-11
編集後記	飯沼一元…………… 12

本年度の事業をふり返って

事務局長 飯沼一元

今年は戊辰百五十年に当たる。薩長では維新百五十年と謳い、京都は大政奉還百五十年である。日本の歴史の百五十年という同じ節目を迎えるに当たって、立場が違えば思いも違ったものになるのはやむを得ないことでしょう。

本会の目的は「白虎隊の義」を後世に伝えること。白虎隊自刃から150年を経過して、白虎隊の知名度は落ちてはいませんが、「白虎隊とは何だったのか？」については「飯盛山から鶴ヶ城を見て、落城と誤認して自刃した」という「少年達の悲劇物語」となっています。地元会津若松においても、白虎隊への関心は年々希薄になっています。

会津藩が降伏し、鶴ヶ城を開城したのは、白虎隊自刃の1か月後です。自刃した白虎隊士の中で唯一生き残った飯沼貞吉は、『白虎隊顛末記』に自刃の理由を「武士の自分を明らかにする」ためとしっかり書きとめていました。

自刃は武士に許された、意思表示の儀式です。筆者は、天皇に至誠を尽くした会津藩が朝敵とされた理不尽に対する抗議を集団自刃という形で表現したものと考えています。これは「ならぬことはならぬ」の会津魂そのものです。

2年前から、若松市内に「白虎隊士生家跡碑」を設置する事業を開始し、本年度も3年目の継

続事業（福島県の地域創生総合支援事業）として助成金を得て、石山虎之助・西川勝太郎・安達藤三郎の生家跡碑を設置しました。現在、当時の会津藩士屋敷の痕跡は殆ど残っていませんが、これで7基となりました。

石碑は石材店に発注するのですが、設置の裏側には、いろいろな苦心があります。本号では、これを担当した古川善裕様に寄稿をお願いしました（P5）。

加えて、鶴ヶ城北出丸近くの西郷邸跡向いの一等地に白虎隊生家案内図を設置しました。鶴ヶ城を訪れる観光客にとっては、会津の主要史跡と共に白虎隊士生家の位置を知ることが出来ます。

この案内図の設置もいざ実行となると難問山積で、一時は断念を覚悟しましたが、多くの人の支援を得て完成に漕ぎ付けることが出来ました（P3・P6）

会津戊辰戦争において、召集令状を受けた白虎隊士が出陣し、飯盛山で自刃するまでは僅か一日の出来事でした。白虎隊士はどこでどのように召集されたのか、どんな気持ちで出陣したのか？

飯盛山墓前蔡では毎年会津高校の生徒達の手で白虎隊剣舞が奉納されます（表紙参照）。一方、

会津の女子高は薙刀の伝統を受け継いでいます。白虎隊士石山虎之助の生家跡は県立葵高校にあります。そこで、葵高校の敷地に石山虎之助の石碑設置と序幕式を実施し、続いて劇団びゅうらの手で、白虎隊出陣劇を奉納していただきました。

演劇は年々円熟味を増し、白虎隊士の真っ直ぐな気持ちを再現し見る人に感動を与えました。また、白虎隊の辿った道のバスツアーを企画し、召集、出陣、戦闘、自刃に至る「白虎隊の一日」を体験していただきました。

下関・長崎・東京支部でも、それぞれの工夫で取組が展開されています。

以下のページに内容を紹介します。

2017年（平成29年）9月17日（日曜日）

福島民報

白虎隊の武士道後世へ
生家跡に記念碑 若松

会津藩白虎隊の子孫や研究者でつくる「白虎隊の会」が、会津若松市にある白虎隊士生家跡に、戊辰（1868）年（明治元年）から戊辰（1868）年（明治元年）までの歴史を伝える「白虎隊生家跡記念碑」を建立した。碑は高さ約1.5メートル、幅約0.5メートルで、白虎隊士の名や戦況などが刻まれている。建立式は、白虎隊の会が主催し、関係者約50人が参加した。白虎隊の会代表の飯沼貞吉（飯沼）は、建立式で「白虎隊士は、国を救うために戦った。彼らの精神を後世に伝えることが私たちの使命だ」と述べた。また、白虎隊士の一人、飯沼貞吉の孫、飯沼貞吉（飯沼）は、建立式で「白虎隊士は、国を救うために戦った。彼らの精神を後世に伝えることが私たちの使命だ」と述べた。

葵高敷地内に建立された白虎隊士石山虎之助生家跡の碑

白虎隊士生家案内図の設置

会津支部 森川敬寿

2018年、会津は戊辰150年の記念のイベントが満載です。150年前、鶴ヶ城の周りには会津藩士の屋敷が立ち並び、武士が生活していました。

現在の会津若松市には勿論その痕跡は在りません。毎年多くの県内外や外国からの観光客が会津を訪れますが、武士が住んでいた様子を知ることができません。

そこで、「白虎隊の会」ではせめて飯盛山で自刃した白虎隊士19名とたった一人の生存者である飯沼貞吉の生家跡を地図にして、観光客の目につく処に建てることになりました。

先ず、どのような地図にするか？どこに設置するか？等々初めてのことばかりで、何から手を付けて良いのか途惑いばかりでした。

現在私が所属している「会津若松市史研究会」の副会長野口信一氏より野口氏が考証された、「会津若松いまむかし城下地図」を勧められ使用することになりました。次に、発行元の「歴史春秋社」の阿部隆一社長にお願いし、許可を頂きました。

次に、設置場所は鶴ヶ城北出丸入り口前の西郷頼母邸あたりが適当と考えましたが、こ

の場所は景観条例の該当地にあたるところであり、道路の一部になるところで許可申請が難しい場所のため、市議会議員目黒章三郎氏に相談し、御尽力頂き、無事、道路維持課に許可申請をすることが出来ました。

また、(公財)会津弔霊義会の許可も頂き、看板の制作は知人の東海堂アド工芸の長谷川社長にお願いすることになりました。

又、「白虎隊士生家案内図」設置に関しては「会津若松観光ビューロー」の理事長新城猪之吉氏を始め専務理事池田哲哉氏、次長石井裕之氏の各氏に全面的にご協力を頂きました。

今回は特に皆様方のご協力が有ってこそ出来た案内図であったと心より感謝しております。今後はこの案内図を多くの観光客や市民の皆様が街歩きの一助にしていきたいと思います。

尚、9月16日(土)に除幕式を行い、会津若松観光ビューロー池田哲哉専務理事、目黒章三郎会津若松市議会議員、白虎隊の会飯沼一元事務局長、白虎隊の会眞部正美会津支部長の四名に除幕して頂きました。



西郷邸跡の真向いに設置した白虎隊士生家マップ(右)。左は降伏の吸血せん

白虎隊士生家跡碑の設置と除幕式

会津支部 森川敬寿

白虎隊士の生家跡に石碑を建て始めてから今年で3年目。今までに設置した石碑は「飯沼貞吉」「篠田儀三郎」「井深茂太郎」「津川喜代美」の4ヶ所。今年の設置場所を決める為、何ヶ所か現地を見て回り、候補地を3ヶ所に絞りました。一つ目は安達籐三郎で竹田綜合病院敷地内、二つ目は石山虎之助で福島県立葵高等学校敷地内、三つ目は西川勝太郎で会津若松市立第二中学校敷地内。

最初に、私の弟が薬剤師として竹田綜合病院に勤務していたので、そのつてを頼りに竹田秀理事長に面会し、石碑設置のご協力をお願いしたところ、快く了承してくださいました。設置場所は病院正面入口前のとても良い場所を提供して頂きました。次に市立第二中学校矢澤良伸校長にお会いし、趣旨を説明しご協力をお願いしました。その後は、市教育委員会教育総務課との打ち合わせを何度か行い、設置場所は校門脇の目立つ場所を貸していただくことになりました。次に県立葵高校の高城友治校長にお会いし、趣旨を説明し、ご協力をお願いしました。こちらも県の許可をいただきました。設置場所には桜の木が何

本も枝を広げていたのですが、何本も枝を切つて下さり良い場所を提供して下さいました。3ヶ所ともスムーズにお話が進みました。ご厚意に深く感謝する次第です。

これまでは、鶴ヶ城開城の日に合わせて9月22日に除幕式を行って来ましたが、今回は諸事情により、1週間程早い9月16日(土)に式を行いました。メインの会場を県立葵高校にして、当日は遠く新潟、宮城、東京、栃木、千葉、茨城などからご参列頂き、序幕は室井照平市長、目黒章三郎市議会議長、白虎隊の会飯沼一元事務局長、真部正美会津支部長の方々に綱を引いて頂き、盛会のうちに式を終わりました。

続いて、劇団びゅひゃららの皆様に白虎隊出陣劇を奉納して頂きましたが、その迫真の演技に参列の皆様は真剣な眼差しで見入っておられました。150年前の現場に実際に居るような錯覚に陥ってしまいました。

好天に恵まれて、白虎隊バスツアーの参加者は約20名で、会津史研究家の石田明夫氏の説明により、白虎隊が出陣していた滝沢本陣、旧滝沢峠を通り、戦場となった戸の口原

の古戦場を巡り飯盛山の隊士の墓に詣で解散しました。夜は旧飯沼家が有った「ねぼけ茶屋」で懇親会を行い、親睦を深めました。今回も私の友人である鶴ヶ城ボランティアガイドの秋山圭右氏、永田清氏に会場設営や受付等を手伝って頂き、色々な方々のご協力があった除幕式を終えることが出来ました、只々感謝あるのみです。



白虎隊士石山虎之助生家跡碑序幕 県立葵高校敷地にて

寄稿1

白虎隊士生家跡碑の制作にあたって

喜多方市塩川町在住 会員 古川善裕

この度は白虎隊の会の会報に寄稿の機会を頂けますこと御礼申し上げます。

弊社では平成27年より白虎隊の会様とご縁をいただき白虎隊士生家跡碑の製作に携わっております。喜多方市塩川町には戊辰戦争の折、白虎隊士飯沼定吉をはじめ様々な人物が訪れた地として記録が残り、地域の人々も関心が高い地域です。毎年9月に生家跡碑除幕の姿が新聞紙面に取り上げられますと反響も大きく誇らしい気持ちになると共に、多くの方々の期待を集める事業であることをあらためて実感いたします。

石碑の製作にあたっては形状や文字、使用する石材など様々な課題がありました。その中で最も注意深く進めたのが石材の選定でした。現在は世界各地で様々な石材が流通していますのでその選択肢は無数にありました。その無数の選択肢の中から選んだ石材が磐梯石でした。この磐梯石は会津磐梯山火山活動から生まれた石材で、その歴史は古く磐梯山の恵みとして大切にされてきました。猪苗代町土津神社の保科正之公墓所や歴代藩主の眠る

院内御廟で多く使用される、まさに会津の歴史を共に歩んできた石材と言えます。

幕末期に会津の教えを守り戦った白虎隊士の生家跡を伝える石碑としてこれほど適した石材は他になく、白虎隊の真実の最後を伝える白虎隊の会の活動にも寄与することの出来る石材であったと思います。

石材は古来より歴史を伝え繋ぐ素材として様々な用途に用いられてきました。石材の持つ大きな特徴は普遍性です。様々な歴史が石に刻まれ、その言葉は何百年の時を経ても歴史を今に伝えることが出来ます。石材は時を重ねるごとに重みを増し、見る人に訴えかける空気を纏うことが出来るのです。白虎隊士生家跡に建てられた石碑は、白虎隊士の姿を今に伝え繋ぐと同時に、百年後の会津人にその姿を伝えることが出来る、時と共に見る人に語り掛けるそんな石碑にこれから姿を変えていきます。

飯沼一元様とのご縁をいただいてから、山川健次郎霊石、飯沼家墓所へのあずき弓碑、白虎隊士生家跡碑に携わる中での多くの学び

から、また一步石材を扱うものとしての心構えを固めることが出来ました。

これらの経験を元に、これからも石材店として、歴史を伝え繋ぐお手伝いをさせていただくと共に、会員皆様の末永いご健勝を祈念いたします。



寄稿2

白虎隊士生家案内板の製作にあたって

（有）東海堂アド工藝 長谷川利彦

今から百五十年前（慶応四年）一八六八年八月白虎隊は西軍（新政府軍）と戸ノ口原で戦っていたのである。つい最近の話とは思えない。

一ヶ月後の九月八日は明治と改元されている。

白虎隊の会の皆様、はじめまして。私自身、会津若松に住んでいます。「白虎隊の会」と言う組織がある事すら分かりませんでした。

そしてこの度、「白虎隊士生家案内図」の製作に関わり大変光栄に思いました。

案内板を設置した場所は、家老西郷頼母邸と道路を隔てた真向かえで、左手には、会津鶴ヶ城、会津三大庭園の白露庭があり、歴史的に会津若松の一等地となります。このため、建造物を設置するには、周辺景観との調和が保たれように厳しく規制されています。また、ここには既に「会津戦争終結の地」や「避難場所案内図」が設置されており、空きスペースも限られています。

新しい案内板の目的や趣旨が理解されても、市役所の都市計画課・道路維持課・文化課と

いった三課の許可が必要となります。これらの申請には、白虎隊の会の森川敬寿様が何度も役所に足を運んで頂きました。

その許可の条件のもとに看板の大きさ・図面・レイアウト・色彩・耐久性等を考え製作に至りました。完成したのは、除幕式の二日前でした。

除幕も依頼されており、成功するようにと願いを込め気合を入れました。自分なりに納得し、白虎隊士の生き方を後世に伝えられる気分でした。

現在の会津人でさえ知らない白虎隊士中二番隊。戸ノ口原で戦い飯盛山に辿り着いた二十名の少年。その事は知っていますが、生家は何処なのかなど会津若松市民は分かりません。案内図には、その二十名の生家跡を書き入れました。当時の町割や道路の上に現在の道路や主な施設が書き入れられており戊辰戦争当時と今の様子が比較できます。

最近になってあの案内板の地図を見て分かってくれる人が多くなりました。「僕の家付近だ」「何々さんの裏だ」「ここが、そうだったのか」と興味深そうに身近な感じとして、ご覧になっています。

二〇一八年（平成三〇年）賊軍と言われた会津藩東軍（旧幕府軍）今年は戊辰一五〇年と位置づけています。勝ち組西軍は維新一五〇年としています。この違いは何なのか？まだまだ心からお互い理解しようとしてないのだろうか？私自身としては、先人が抱いた思い会津人として「義」の誇りを捨てたくないと思っております。

結びに、この仕事をさせて頂いた白虎隊の会 飯沼様はじめ関係者様に深く御礼申し上げます。ありがとうございました。



白虎隊士生家案内板の設置場所（現在値）付近

下関支部報告

支部長 吉井克也

一昨年の十月に、全国から多大なるご支援を頂いて建立できた美祢市小杉の「恩愛の碑」に、市外・県外からいろいろな方が訪れておられます。この碑の趣意に共感され、会津・長州の友好」と「世界平和」の実現を望む人が増えることを切に願っています。

一 活動報告

- ① 四月十三日 青森県東亜日報記者「下関の中の会津」案内
- ② 四月十八日 伊達市・下関市の交流会参加
- ③ 四月二十三日 勝山三山の会総会記念講演会「会津・長州の友好を考える」
- ④ 四月二十三日 菊川町婦人会総会記念講演
- ⑤ 五月十三日 下関応援団総会出席
- ⑥ 六月十日 会津間諜神戸岩蔵墓清掃と整備活動(九名)
- ⑦ 七月二十八日 下関応援団「伊達市親子との交流会」参加(六名)
- ⑧ 八月二日 神戸岩蔵墓参・「恩愛の碑」整備作業(十二名)
- ⑨ 九月七日 菊川公民館歴史講座講演「長州の中の会津」



長州藩士 榎崎頼三 白虎隊士 飯沼貞吉
恩愛の碑 清掃活動風景

- ⑩ 九月十一日 宇部市厚東文化協会 みどり学級講話「長州の中の会津」
- ⑪ 九月一四日 美祢市四郎ヶ原塾歴史ウォーク講話「高見フサ口伝」
- ⑫ 十月二十九日 関門北九州クラブ「恩愛の碑」紹介
- ⑬ 十一月二十六日 会津日新館館長 宗像 精 先生 講演 演題『戊辰百五十年の会津人の思い』萩市松陰神社
- ⑭ 十二月二・三日 長崎会津会会長(長崎歴史文化博物館前館長) 大堀 哲先生

神戸岩蔵墓整備



四郎ヶ原塾(児童)



- 追悼記念講演会講演「恩愛の碑建立物語」
- ⑮ 二月十三日 海峡裏町塾講話「長州の中の会津」
- ⑯ 二月二十五日 下関支部総会

二 おわりに

昨年の十一月には、萩市に会津日新館長宗像精先生が萩市に來られ、「戊辰一五十年会津人の思い」をテーマに、会津・長州の未来に向けたご講演をされました。私たち下関支部の今後の取り組みに向けて多大なる御示唆を頂きました。また、今年の七月には白河市で東西両軍戦没者の合同慰霊祭が企画されているなど、会津・長州の関係改善に向けた活動が精力的に行われています。下関支部は「長州の中の会津・白河」を紹介するリーフレットを作る予定です。

長崎支部だより

長崎支部 工藤新一

昨年、8月に党支部顧問であり長崎會津会会長で長崎歴史文化博物館大堀哲館長が死去されました。十二月に追悼の講演会「長崎と会津をつなぐ絆③」杉亨二没後一〇〇年・戊辰戦争一五〇年 恩愛の絆を長崎會津会との共催で開催しました。第一部は「国勢調査の生みの親杉亨二没後一〇〇年」と題し「近代統計学の祖杉亨二伝」「長崎と会津をつなぐ私の家族たち」をバルトの楽園の松江豊寿の弟で日本で最初に角砂糖を作った松江春次のお孫さんの松宮伊佐子様とご主人の克昌様に、「杉亨二と勝海舟」海舟の玄孫の高山みな子さんに、第二部は「戊辰戦争一五〇年恩愛の絆」で白虎隊の会副会長長木下健様に「戊辰戦争一五〇年と長崎」を「恩愛の碑建立物語 白虎隊士・飯沼貞吉と長州藩士。檣崎頼三」を吉井克也下関支部長に御講演いただきました。初めに長崎會津会副会長で当会の高久副支部長の開会挨拶で大堀館長に黙とうを捧げ、終わりに、会津の「義」と長州の「信」をつなぐ絆が長崎の「和」ではないでしょうかと結んで閉会しました。

東京支部だより

東京支部 渡部麗

2018年は戊辰戦争から150年という大きな節目を迎えました。この大きな時代の転換を期により多くのひとに「幕末」という、日本が激しく動いた時を知ってもらおう活動をレキシブルで仕掛けていきます。

さてこの戊辰150周年を記念して、会津若松市が番組を制作しています。タイトルは「AIZUー目覚めよ義の心ー」。これに私は松平14代の殿様の出演ブックキングと歴史考察を担当しています。この番組の特徴として、「大義」「忠義」「信義」「道義」という4つの義をテーマに30分×4タイプの構成になっています。そして必ずナビゲーターに外国人を起用しているところが新しい切り口として目を引きます。

殿様がご出演なさるのが「大義編」。オランダ王国大使館のバス・ヴァルクス氏と会津武士道を紐解く場所を訪ねるドキュメンタリー。私も撮影に同行しましたが、とても素晴らしい出来になると確信しています。白虎隊の精神を育んだ根幹がこの番組には凝縮されています。

放送は5月からBS日テレやBS TBSなどです。ぜひご覧いただけたら幸いです



会津支部懇親会の参加者（寝ぼけ茶屋にて）



会津松平家第14代松平保久様

本部だより

1. 会員

2017年度の新入会員は3名（昨年比－4）でした。今回から会員名簿上、会費2年未納者は休会、3年以上は退会とし、物故者と共に名簿から削除しました。その結果、2018年3月末現在、名簿登録会員数は129名（－11名）となった。内訳は特別会員27（0）、一般100（＋2）、賛助2（0）。地域別内訳は会津32（－3）、東京35（－2）、下関17（＋1）、京都10（＋1）、長崎7（0）、その他28名である。

2. 活動

主な活動実績は表に示すとおりです。赤字は、本文に記事が紹介されています。

年月日	主な活動（予告を含む）
2018年4月16日（予）	会報第8号発行
2018年4月2日（予）	年次総会（インターネットで）
2018年1月16日	夕刊読売新聞大阪版「維新の記憶シリーズ」会津白虎隊の記事掲載
2017年11月28日	会津史談会第92号に「会津と長州」の論文投稿
2017年10月14日	明治維新150周年記念「幕末の会津藩と白虎隊」を講演（神奈川県大和市）
2017年9月16日	白虎隊士生家跡石碑3基除幕並びに白虎隊出陣劇の奉納、白虎隊ツアー実施
2017年9月16日	白虎隊士生家案内板を西郷邸向かいに設置し序幕
2017年8月1日	平成29年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）に白虎隊士生家跡整備事業が採択される。
2017年4月25日	会津史談第91号p35に「会津と白虎隊」の論文が掲載される
2017年4月24日	春の飯盛山墓前祭参加（会津支部）
2017年4月16日	会報第7号発行
2017年4月2日	年次総会（インターネットで）

3. 決算報告

白虎隊の会			損益計算書		
貸借対照表		単位（円）	収入の部		単位（円）
負債の部			支出の部		
資産の部			会費	270,000	助成事業外注費
現金及び預金	708,526	未払金	0		1,511,044
未収入金	0	負債の部合計	寄付	182,000	会誌発行
		0	書籍代	58,200	広告販促費
		前期繰越残高	895,880	会報名刺	20,500
		今期損益金	－187,354	助成金	926,000
		次期繰越残高	708,526	支払手数料	2,346
資産の部合計	708,526	負債純資産合計	708,526	今期損益金	－187,354
会計監査	平成29年3月31日現在		合計	1,456,700	1,456,700

会計監査

平成29年度の決算報告書及び預貯金記録を照合精査した結果、いずれも誤りなく執行されていることを認めましたので、ここに報告いたします。

平成30年3月31日 会計監査役 緑川 正和 印

4. 2018年度の計画

新規会員獲得目標5名、総事業費は30万円を予定。

1. 戊辰150年記念会津藩侯行列に子孫隊として参加。
2. 戊辰150年記念展示・出版等に資料提供等で協力
3. なお、会誌の発行は2018年度は見送る予定です。

白虎隊の会 設立趣意書

会津白虎隊は1868年（慶応4年）3月1日に会津藩の最年少軍隊として組織され、戊辰戦争で皇国への義を掲げて、新政府軍と戦いました。

数え年16～17歳で編成された白虎隊は総勢約300名で、うち約30名が戦死し、16名が飯盛山で自刃しました。

彼らはこの戦いで、会津の教え、を健気にも最後まで守り通しました。

会津の教え、とは『ならぬことはならぬ』に象徴される生活の掟でした。

いつ、いかなる場面でも『義』をもって生きることが彼らの行動規範でした。

生き残った白虎隊士の多くは、国賊の汚名を着せられ、流罪となり、死んでいった戦友たちへの忸怩たる思いを抱きながら、艱難辛苦に耐えました。

一方、会津白虎隊の壮烈果敢な行動は「皇国への犠牲」としてモデル化され、戦争に利用されました。

あれから144年、会津白虎隊士の子孫は4代目から5代目を迎え、情報は散逸し、史実は風化しつつあります。

しかし、白虎隊物語は、日本人の心の中に生かし続ける必要があるのではないのでしょうか？

私たちは白虎隊の『義』を現代および将来に伝え、広めることを目的として、【白虎隊の会】を設立しました。

この会は、1.調査・研究、2.交流、3.事業企画 の3つを中心に会員自らの活動を原動力として推進いたします。本会の運営は会則に示すとおりです。入会資格は問いませんので、趣旨に賛同いただける方の入会を切にお待ちいたします。

2010年4月1日

【白虎隊の会】設立発起人一同
文責 発起人代表 飯沼一元

《編集後記》

会津にとって、白虎隊は鶴ヶ城と双壁をなす宝でしょう。「悲劇の白虎隊」という「お涙頂戴物語」は会津の観光資源として、十分に機能してきました。しかし、白虎隊は「鶴ヶ城が落城したと早とりちりして死んだ」という落城誤認説がまかりと通るうちは本物の宝にはならないでしょう。

戊辰戦争で散った白虎隊士に学ぶものがあると信じ、白虎隊の会を立ち上げて8年。「武士の本分を明らかにする」ために自刃したという証言を大切に、この輪を一人でも多くの人に広げたい。「義」に生きた白虎隊士を現代の若者に伝えたい。

会誌第8号を皆さんの協力により、発行することができました。継続は力なりと自分を戒めながら、今年は戊辰150年に向います。

2018年3月 飯沼記

♪白虎隊の会について♪

★入会は自由です。入会金は無料・年会費は三千元です。

5年分一括納入へのご協力をお願いしています。

郵便振込先加入者名：白虎隊の会 □座記号番号00100-1-616556

【白虎隊の会】事務局

〒156-0054 東京都世田谷区桜丘2-24-14 TEL:03-3429-6652 FAX:03-3429-6654

発行責任者 事務局 飯沼一元

ホームページ：http://byakko1868.web.fc2.com/

検索